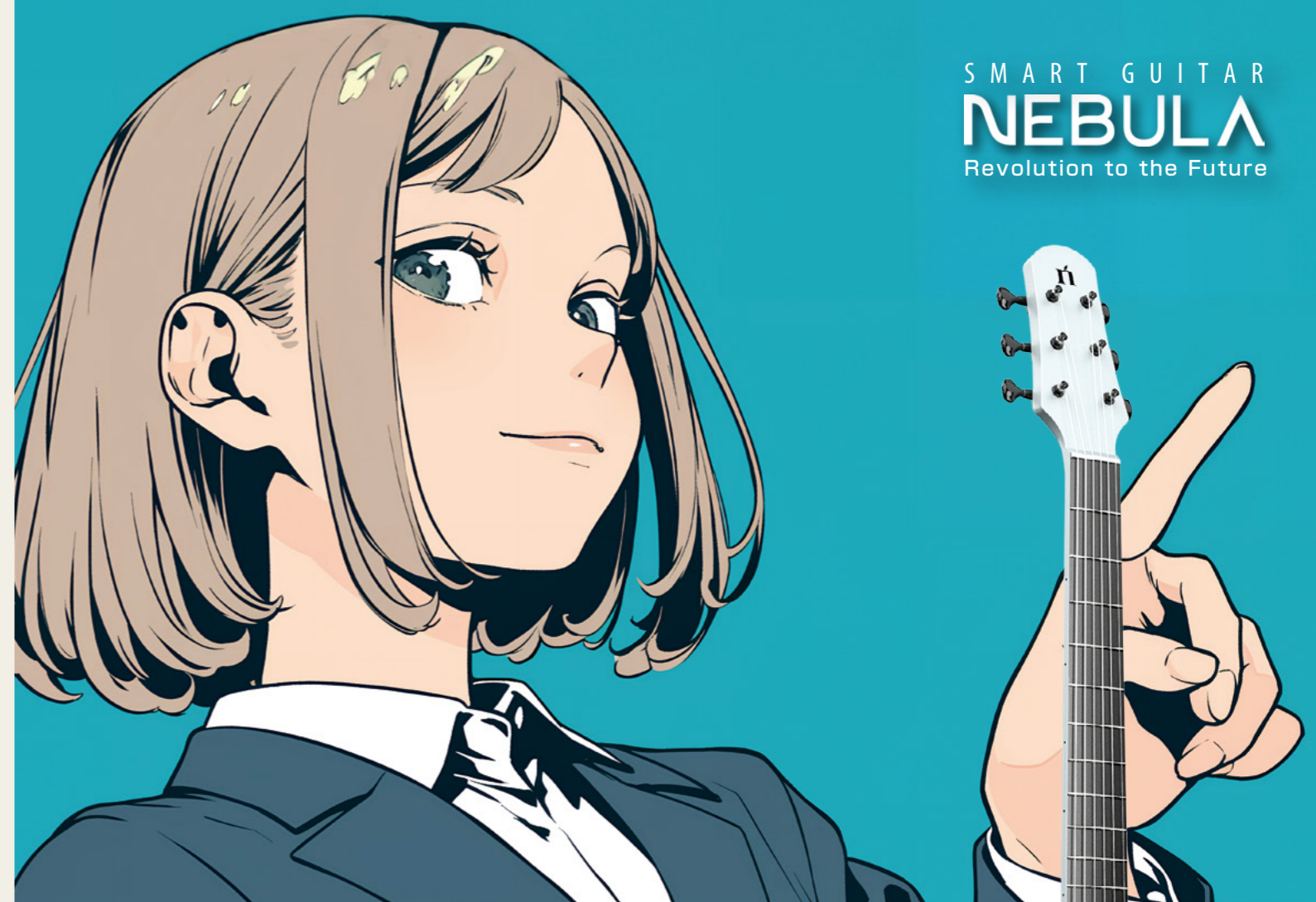


軽音楽部マガジン

発行：特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 配布：全国 2,140 校の高等学校軽音楽部



新入部員必見！
楽器・機材の選び方&必須アイテム

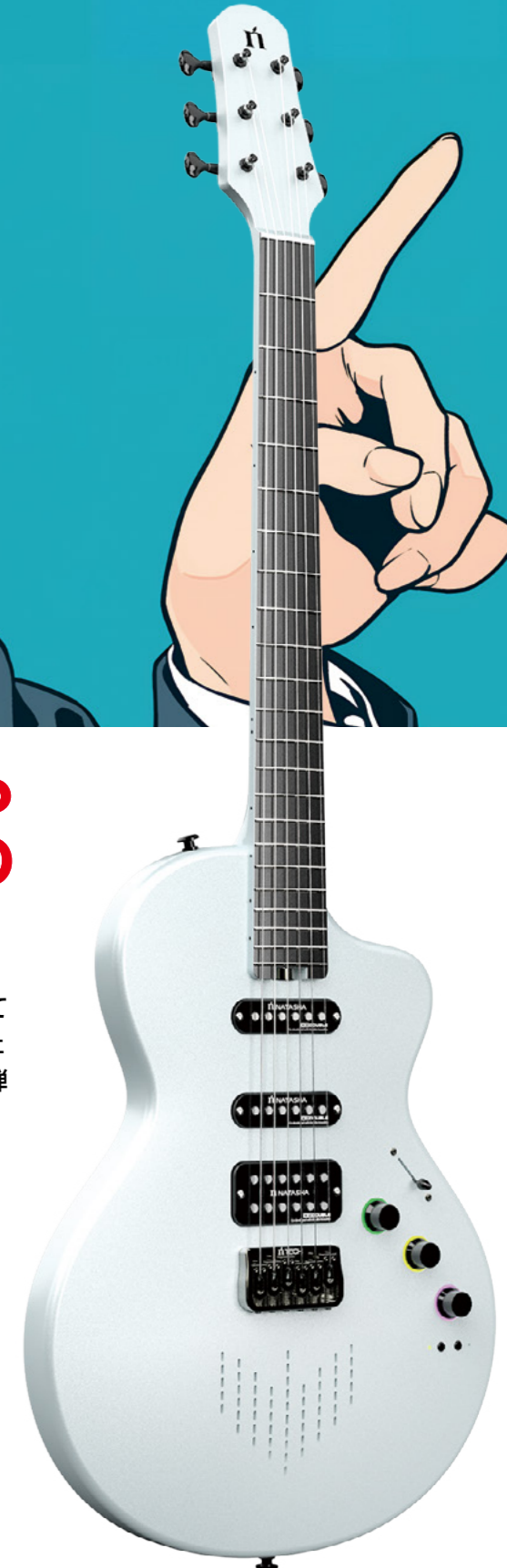


SMART GUITAR
NEBULA
 Revolution to the Future

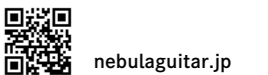
ヘッドフォンで演奏が楽しめる スピーカー、エフェクト内蔵の SMART なギター

アンプへの接続はもちろん、ヘッドフォン端子やスピーカーを内蔵。軽くて丈夫なカーボンファイバーを本体に採用し、多彩な音作りを実現するエフェクターやチューナー、メトロノーム、ルーバーを搭載。いつでもどこでも「弾きたい!」と思った瞬間に演奏できる、スマートなギターです。

- 1 スピーカー搭載で、面倒な準備をスキップ
- 2 ヘッドフォンを接続すれば、夜間の演奏も◎
- 3 ワンタッチでエフェクトが切り替わる
- 4 豊富なエフェクト群を自由にカスタマイズ
- 5 演奏をサポートしてくれる様々な便利機能
- 6 USB Type-C 対応でギターの録音が簡単に
- 7 高温多湿に強く、軽量なカーボン素材
- 8 丈夫で使いやすい高機能なギグバッグ付属



定価：77,000 円（税込）
 高機能ギグバッグ付属



全国約4,800校の 高校に軽音楽部を!

※現在、軽音楽部があるのは2,140校です(令和7年6月1日当協会調べ)

軽音楽部の諸活動を通して若者の成長を応援しています

1 軽音楽部の正しい理解を

軽音楽部は部活動としての歴史が浅く、ポピュラーミュージックやバンドへの偏見も一部に残っており、正しく理解されていないのが実状です。STEAM教育の一端として、軽音楽を通じた部活動の有意義さや得られるものなどを学校内外へ広めていきます。

2 軽音楽部の全国普及に向けて

学校教育の一環である部活動のひとつとして、軽音楽部が全国の学校に設立されることを目指し、日々の練習や演奏会のサポート、楽器や機材の相談、各種クリニックや大会の開催など、諸活動をバックアップしていきます。

3 新しい活動の提案と支援

デジタル化、IoT化による現代的な楽器や機材、DTMの普及による新しい軽音楽のスタイルなど、今と未来に見合った活動を各業界とのパイプ役として軽音楽部に提案、支援しつつ、軽音楽のポップカルチャーとしての発展を目指します。

当協会の理念や活動内容にご賛同いただける方々のご寄付をお待ちしております
詳しくはこちらまで…



特別賛助会員の皆様 (敬称略/順不同)

株式会社未常識	名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団	ギブソン・ブランド・ジャパン株式会社
一般社団法人サトヤマカイギ	フェンダーミュージック株式会社
宝塚大学	株式会社トップトラベルサービス
日本工学院専門学校/日本工学院八王子専門学校	株式会社コスモエージェンシー
専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社福々家(モアリゾート、ホテル寺尾温泉)
専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー	音楽ロッヂ ゆうげん荘
専門学校大阪ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社オーティーズ

特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会
keionkyo.org



軽音楽部マガジン

令和8年3月号 VOL.90

■軽音楽部マガジン VOL.90 ■創刊:平成25年12月18日(水) ■第15巻1号通巻90号
■監修・発行/特定非営利活動法人(NPO法人)全国学校軽音楽部協会 JASLMC (Japan Association of School Light Music Club)
〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-37-6-405 TEL:045-913-0901 FAX:045-913-1900 E-Mail:info@keionkyo.org

■企画・編集/株式会社未常識

新入部員必見!
楽器・機材の選び方&必須アイテム.....4

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 副理事長 辻 伸介

From Chief-In-Editor

DXによる指導と環境のイノベーション

これまで育まれてきた軽音楽文化は社会の変化とともに、よりスマートでサステナブルな活動形態に進むべき段階に来ていると思います。私たちはNPO法人として、現場の熱量に寄り添いながら、その未来図を共に描いていきたいと考えています。

現在、現場が直面している課題は練習環境の維持と指導体制の確保ではないでしょうか。近隣への騒音問題、限られた予算、少ない練習場所の中で、多くの部員が満足できる活動環境を整える…これは軽音楽部が社会と調和し、発展していくために避けて通れないテーマです。

私たちが1つの解として注目しているのが、デジタル技術を駆使した「DX(デジタルトランスフォーメーション)」の導入です。例えば、次世代の「SMARTな楽器」の活用です。ここで言う「SMART」とは、複数の機能が高度に統合(INTEGRATED)されていることを指します。象徴的な「スマートギター」はアンプやエフェクターを本体に内蔵しており、学校側が用意・管理すべき機材を最小限に抑えられます。

この統合によるメリットは計り知れません。機材が減ることでセッティングを簡略化することができ、練習時間を最大化できるだけでなく、ヘッドフォンを使うことで個々の演奏がクリアに聴こえます。また、1つの音楽室で複数のバンドが同時に、高い集中力を持って練習することもできます。これは、限られた資源で多くの部員を受け入れる現代の部活動において、極めて合理的な選択肢となります。

そして、私たちが提唱したいのは「軽音楽部のバンド」という活動の真の価値です。それは、かつてのバンド経験者が知る「ロックバンド」の姿とは少し異なります。個々の演奏技術の巧拙以上に、4~5名という小集団で自ら考え、合意形成を行い、音楽を創り上げていく「形態」そのものに意味があると考えています。

正解のない時代を生きる生徒にとって、仲間と試行錯誤するプロジェクトの経験こそが、将来にわたる重要なスキルとなります。昨今の「教職員の働き方改革」に伴う指導者不足の中でも、求められる役割は技術指導から、生徒の自主性を支える「ファシリテーター」へと変化していくべきでしょう。DXの導入は機材管理や騒音対策といった物理的な手間をテクノロジーで肩代わりし、指導者が生徒の対話やプロセスに集中できる環境を整えるための不可欠なステップだと思います。

もちろん、生音の迫力やアナログ機材の喜びが損なわれるわけではありません。本質を守りつつ、最新技術を「心強い味方」として取り入れる柔軟な姿勢こそが、軽音楽部をより多くの人々に応援される活動へとアップデートさせます。「デジタル」という新しい可能性を味方につけ、「軽音楽部」が創造性と喜びに満ちた活動場所となるよう、私たちもサポートしていきます。

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長 三谷佳之

新入部員必見！ 楽器・機材の選び方 & 必須アイテム



新入生の皆さん、もう新生活には慣れましたか。軽音楽部へ入部して担当パートが決まったら、そのパートに必要な楽器や機材を用意しなければなりません。中学生の頃から楽器をやっている、もう既に必要なものは揃っているという人もいます。ほとんどの人は右も左もわからないといった状態ではないでしょうか。楽器を購入する際には、注意しておくべきことがあります。部活動で軽音楽をする場合の楽器と機材についてまとめてみました！

また、それぞれに必要な周辺アイテムも楽器パート別に紹介しているので、楽器購入の時の参考にしてください。

☆楽器・機材の選び方

ボーカリスト

楽器を演奏しながら歌いたい人や、後々作曲に挑戦したいという人は別ですが、部活動でボーカルを担当する場合、マイクなどの必要な機材は部の備品として備わっていることがほとんどなので、基本的に自分で購入したり用意するものではありません。しかし、近年では衛生面も考慮して「自分専用のマイク」を持参する人も増えています。

ボーカル・マイク

ボーカル用のマイクは、使用するスタンドと共に部の備品として揃っていると思います。しかし、衛生面の注意喚起が叫ばれる今、自分専用の「マイ・マイク」の持参を推奨する学校も増えています。

マイク自体の種類には、大きく分けて「ダイナミック・マイク」と「コンデンサー・マイク」があり、どちらもボーカル用に作られた機種があります。最終的には好みになりますが、普段の練習やライブで使用するのであれば、ダイナミック・マイクを選択しておきましょう。現在では、ほとんどの場合ボーカル・マイクとして使われているのは、SHURE社の「SM58」という機種です。マイクは機種によってキャラクターが違うので、購入するのであれば、自分の歌いやすさのためにも、音響スタッフの作業軽減のためにも、SM58がお勧めです。

マイクには、スイッチが付いているタイプと付いていないタイプがあります。便利なのは

は手元でオン／オフができるスイッチ付きですが、いざ歌おうとした時にマイクがオンになっていなかったり、歌っている最中に誤ってオフにしてしまう可能性もあるので注意が必要です。



▲SHURE SM58。マイ・マイクを選ぶならほぼこれ一択

アコースティック・ギター

楽器を演奏しながら歌ったり、オリジナル曲を作ったりする時に、何かしらの楽器を使

うことはよくあります。そんなボーカリストの相棒として定番なのは、やはりギターです。バンドのギターと言えば、エレキ・ギターを思い浮かべる人が多いかもしれませんが、電気を使わずに音を出して演奏できる「アコースティック・ギター（以下、アコギ）」もよく使われます。アコギには様々な種類がありますが、バンドで使用するのは主にフォーク・ギターと呼ばれるタイプです。



▲同じアコギと言っても、ボディの形や大きさなどは様々。右端はナイロン弦のクラシック・ギター

のだと弦が押さえにくかったり、チューニングが合いづらかったりすることもありますが、控えた方が良さかもしれません。アコギは、ボディ自体で弦の響きを共鳴させて音を出す構造になっているので、エレキ・ギターよりもボディが大きく厚みがあります。ボディは各メーカーやシリーズによって大きさやシェイプに様々な種類があり、サウンドを決める大事な要素ですが、**抱えた時の弾きやすさ**がアコギ選びの大きなポイントとなるでしょう。

マイク内蔵

アコギの音は、大音量のバンド・サウンドの中ではかき消されてしまうため、軽音楽部でアコギを使いたいのであれば、ピックアップ・マイクを搭載した「**エレクトリックアコースティック・ギター（通称エレアコ）**」を選んでおきましょう。普段は普通のアコギとしても使用でき、バンドの中で演奏する時はエレキ・ギターのようにアンプやミキサーにつないで、音を増幅することができます。

ボディ

アコギの選び方は、好きな色や形を優先しても構わないと思いますが、あまり廉価な



▲ピエゾ素子が組み込まれた、最もスタンダードなアコギ用ピックアップ。様々な形や取り付け方がある

ギターリスト

エレクトリック・ギター（以下、エレキ・ギター）の音を出すには、ギター本体と音を増幅する「ギター・アンプ」が必要です。また、近年では「エフェクター」を使用する場合も多くなっています。ギター・アンプは学校の備品として部に揃っていると思うので、それ以外のものが必要です。様々な演奏や音色が求められるギターリストには、まず自分の出したい音を見つけていることが大事です。

エレキ・ギター

ポピュラー・ミュージックでは、電気を使って音を出すエレキ・ギターを使います。大雑把に言えば、ギター選びは好みの形や色を優先しても大丈夫です。例えば、「憧れのアーティストが使っている」「色が可愛くて好き」「先輩が使っていてかっこ良かった」…など、弾いていて楽しくなるようなギターを選びましょう。

ピックアップ

エレキ・ギターには材質や大きさなどにそれぞれ特徴があります。自分がやりたい音楽ジャンルのサウンドを考えて選ぶことも大切です。中でも、エレキ・ギターの基本的なサウンドを左右する「ピックアップ・マイク」（以下、「ピックアップ」）を考えて選ぶことは大事です。エレキ・ギター本体の中央部に搭載されていて、弾いた弦の音を拾うマイクのことです。

大きく分けると、歯切れが良くきらびやかなサウンドが特徴で、特に高音域の繊細なニュ

アンスの表現に優れている「シングル・コイル」と、パワフルで甘いサウンドが特徴で、低音の効いた歪みを生み出すことができる「ハムバッカー」という2種類があります。特にこだわりがなければ、**シングル・コイル・ピックアップ**搭載のギターを選んでおいた方が、幅広いろいろなジャンルを演奏できます。

ネック

ネックはギターの弾きやすさを左右します。形状や指板の材質、フレットの種類なども演奏に大きく影響しますが、まず確認したいのは、ナットからブリッジまでの距離を差す「スケール」です。メーカーや機種によって採用されているサイズは異なりますが、長いほどフレットの間隔が広くなり、弦のテンション（張力）がきつくなります。一般的な長さを**ロング・スケール**と呼びますが、手が小さい人や握力が弱い人は、**ミディアム・スケール**や**ショート・スケール**のギターも検討してみてください。

☆楽器・機材の選び方

ベーシスト

ベース選びは、ある意味ギター以上に慎重になるべきかもしれません。一般的な選択肢は、色や形といった好みによる部分の他に、「フリリアンプ搭載の有無」「ピックアップ・マイクの種類」「ネックの長さや形状」「弦の本数」など、たくさんあります。サウンドだけではなく、弾きやすさにも関わるポイントを知っておきましょう。

エレクトリック・ベース

ポピュラー・ミュージックでは、電気を使って音を出すエレクトリック・ベースを使用します。しかし、楽器のタイプによって、レイ・スタイルや音色作りなど、様々なことが変わってきます。見た目で選んでしまっても構いませんが、特定のジャンルの音楽にしか馴染みにくいベースもあるので注意しましょう。

ピックアップ

当然ながら、ベースを選ぶ際に最も重要な点が音色です。音色は使用している木材やパーツなどでも変わってきますが、中でも重要なのが「ピックアップ」です。ピックアップとは、ボディの中心部に付いている、弾いた弦の振動を拾って電気信号に変えるパーツです。正式には「ピックアップ・マイク」と言います。

最も基本的な「シングル・コイル・ピックアップ」は、クセがなく幅広いジャンルに対応できるスタンダードな音色です。洋楽邦楽問わず、ロック、ポップス…いろいろな音色を使

う音楽にお勧めです。特にこだわりがなければ、**シングル・コイル・ピックアップ**が搭載されている機種を選んでおきましょう。

もう一つ、代表的なピックアップとして「スプリット・コイル・ピックアップ」があります。太くて力強く、ピッキング・コントロール次第では、丸みのある音色から歪んだ音色まで様々なサウンド表現ができます。ただ、基本的に音色の幅は広くなく、相性の良いジャンルはロック、メタル、ソウル、ファンクなどストリートで力強い音楽です。

その2種類のピックアップを一つにまとめたような構造なのが、「ハムバッカー・ピックアップ」です。パワーのある力強い音色が特徴で、ロック、ミクスチャー、ファンクなど、ベースが中心にいるジャンルで特に相性抜群です。

他にも、ピックアップには様々な種類あるのですが、基本的にはこの3つのタイプの組み合わせで作られているものが一般的です。

ネック

ベースを演奏する時の弾きやすさに関わってくるのがネックです。ネックは、形状、指

ブリッジ

ネックと反対側で弦を固定しているブリッジも、ギター選びのポイントの一つです。一般的なエレキ・ギターであればあまり気にすることはありませんが、アーミングすることが前提になっている「フロイド・ローズ」タイプなどは、チューニングや弦交換が少し難しいので、特に激しいアーミングすることを求めている方であれば避けたいでしょう。機種によっては、フロイド・ローズ・タイプほど特殊ではなくても、アーミングができるブリッジのエレキ・ギターはたくさんあります。

その他

エレキ・ギターは、パーツを自由に取り換えることができます。中古品はカスタマイズされている場合があるので、特に理由がなければ**純正品の新品**を購入の方が安全です。



▲通常のアーム・ブリッジ。通称トレモロ・アーム
▲シングル・コイル。歯切れ良くクリアなサウンドが特徴

板の材質、フレットの種類などが機種によって違いますが、ベースを選ぶ際に気にしておくべきなのが、ナットからブリッジまでの距離を表す「スケール」です。こだわりがなければ、最もスタンダードな**ロング・スケール**がお勧めですが、女性や体の小さい人には少し短い**ミディアム・スケール**も人気です。

フリリアンプの有無

一般的なベースは、「バッシブ・タイプ」と呼ばれます。それに対し「フリリアンプ」というエフェクターを内蔵したベースのことを「アクティブ・タイプ」と呼びます。アクティブ・タイプは、ベース本体にトーンなどを細かく調整できるツマミが付いているので、とても使い



▲一般的なシングル・コイル（左）とスプリット・コイル。形だけではなく搭載位置も違う

エフェクター

ギターをアンプにつなぐ前に、音を加工（エフェクト）させる機材を「エフェクター」と言います。音を歪ませたり広がりを出したり、自分の好みの音に変化させることができます。

最近では、複数のエフェクターが1台の中に内蔵されている**マルチ・エフェクター**が一般的です。1曲の中でクリーン・トーンから歪みサウンドまで様々な音色を使い、それぞれの音の音量を変えなければいけないギターリストにとって、必須のアイテムと言えます。

マルチ・エフェクターには、チューナーやメトロノーム機能の他に、いくつものギター・アンプの音がシミュレーションされている「アンプ・シミュレーター」が内蔵されています。アンプがない場所でもヘッドフォンを使えばいつものサウンドで練習することができます。作ったサウンドは保存しておくことができます。普段の練習やライブ、レコーディングといったどんな場面でも、ギター・アンプの種類を問わず、同じサウンドが再現可能となります。



▲安価でコンパクトな製品も多くなっている

勝手は良いのですが、電池を使用する必要があるため電池切れに注意が必要なこと、本体自体が重いこと、慣れるまでは音作りが難しいことが難点です。特に、初めて購入するベースであれば、**バッシブ・タイプ**がお勧めです。

エフェクター

ベースは、ギターに比べて音色を加工することが少ない楽器ですが、音楽ジャンルによってはエフェクティブなサウンドが求められる場合もあります。また、ソコをとりたり弾きムラを軽減するといった理由で、「エフェクター」を使用することもあります。

今ではベース用のエフェクターもたくさん発売されていますが、アンプ・シミュレーターやメトロノーム、チューナー、ルーパーなどの多彩な機能を持つ**マルチ・エフェクター**が人気です。最も有効なのは、ヘッドフォン・アウトが付いていることで、大きな音を出さずに自宅でもどこでも練習することができます。

もちろん、様々な音を組み合わせで作った音色は、本体に保存することができるので、バンド練習の時とライブ、レコーディングと、ベース・アンプを選ぶことなく、いつものサウンドを出すことができます。



▲コンパクトで安価ながら多彩な音色作りが可能な機種も

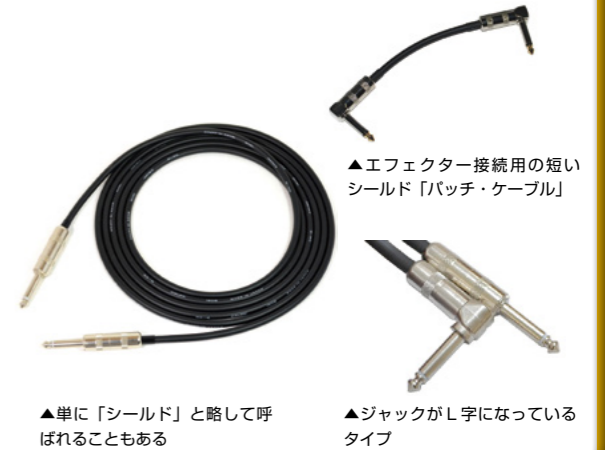
ギターやベースは、音を出すため、演奏するための周辺機器も必要です。本体を購入する時に一緒に揃えておきましょう。また、弦交換や普段のちょっとした手入れに使う道具なども持っているとう便利です。

揃えておくべき必須アイテム ギター&ベース編

シールド・ケーブル

ギターやベース本体とアンプやエフェクターをつなぐためのケーブルを「シールド・ケーブル」と言います。特に高価なものを用意する必要はありませんが、あまり廉価なものには控えた方が良いでしょう。

購入時に気をつけた方がいいのは長さです。少なくとも**5メートル以上**のものを選びましょう。また、エフェクターの使用度にもよりますが、断線してしまった時などの予備も含め、最低でも**2本**は常に持っておきましょう。



▲エフェクター接続用の短いシールド「パッチ・ケーブル」

▲単に「シールド」と略して呼ばれることもある

▲ジャックがL字になっているタイプ

ピック

手で持って、弦を弾く(はじく)道具が「ピック」です。中にはピックを使わないギターリストやベースリストもいますが、特にギターリストはギター本体、シールド・ケーブル、ピックを三種の神器と考えておきましょう。現在では様々な種類が発売されていますが、大きさ、硬さ、形状、材質に違いがあります。

形は、**三角形**や**涙形**(ティアドロップ)が一般的ですが、演奏に直接関わる大事なアイテムなので、持った感じと弾き心地を重視して選びましょう。ピックは使っていくうちに削れていく消耗品なので、気になるピックを1枚ずつ購入して弾き比べてみるのも有効ですが、先輩や他の部員のピックを握らせてもらうなど、いろいろ試してみてもいいかもしれません。

また、ピックは失くしがちなので、複数枚を**ビック・ケース**に入れて持っておきましょう。

また、ピックは失くしがちなので、複数枚をビック・ケースに入れて持っておきましょう。



▲各メーカーから様々なピックが発売されている

チューナー

楽器はチューニングが命です。ギターやベースなどの「棒モノ楽器」は、ネックがフレットで区切られていて、張られた弦を指で押さえることで音程を変え、仕組みになっています。しかし、元々の調弦(チューニング)が狂っていると正しい音程を出すことができません。ゆくゆくは、耳で音程の狂いを聞き分けてチューニングできるようにすることが理想ですが、はじめのうちは「チューニング・メーター(チューナー)」を使って合わせていきましょう。バンド練習やライブなど、たくさん音が出るため、なるべく早く正確にチューニングしたい時にも重宝します。チューナーには、いくつかタイプがありますが、最近では手軽さも含めギター・ヘッドに付ける**クリップ・チューナー**が人気です。廉価なものには精度が不安定なものもあるので、他の楽器と合奏する時に困らないように、ある程度の品質を保ったものを選びましょう。他に、シールドをつなぐ「カード型」や、エフェクターのように足でオン/オフができる「ストンプ型」などもあります。スマートフォン用の無料アプリもありますが、正確性に欠けるためあまりお勧めできません。



▲クリップ型

▲ストンプ型

▲カード型

ストラップ、ケース

バンドではギターやベースを立てて演奏することが多いため、肩に楽器を掛ける「ストラップ」が必需品です。様々なデザインや材質のものがあるので好みで選んでも構いませんが、長い時間楽器を抱えていても肩への負担が軽く、**ストラップ・ピンから外れにくい**ものを選びましょう。特に、ベースは一般的にギターよりも重くネックも長いので、**肩のホルダー**がしっかりとしているタイプがお勧めです。

また、ギターやベースを持ち運ぶためには、専用のケースが必要です。シールド・ケーブルやチューナーなどの周辺アイテムを入れる



▲校名が入ったケースを部員みんなで揃えれば、部活動としての連帯感も増す



▲なるべく肩への負担が少ないものを選びましょう

換え弦&弦交換アイテム

弦は、演奏中に突然切れることがあります。いつでも**予備の弦**をケースに入れて持ち歩きましょう。弦の種類は様々で、どれを使うかは好みですが、弾きやすさやサウンドを重視したり、ネックの長さ(スケール)を考慮して選びましょう。先輩に相談したり、触らせてもらうと感覚がわかると思えます。いろいろと試してみることが好みの弦に出会える近道です。

素材 弦には様々な素材のものがあります。最もスタンダードな素材は**ニッケル製**です。他に、ステンレス製や弦を薄い皮膜で覆った**コーテッド**弦も人気です。**太さ(ゲージ)** 弦は、太さの組み合わせでセットでも売られています。ギターは「スーパー・



▲弦の種類は太さや材質の違いなど様々



▲ニッパー。弦を切る時に必要

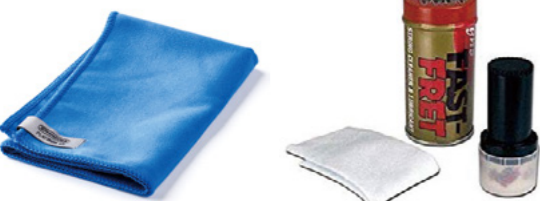


▲ストリング・ワインダー。弦交換の時にベグを早く回す道具。通称「アルトベンリ」

クロス&潤滑剤

ギターやベースの弦は、汗や手の脂がついたままにしておくと錆びやすく消耗が早くなってしまいます。演奏が終わったら、ケースにしまう前に必ず**クロス**などで弦を拭きましょ。クロスは、弦交換をする時のちょっとした掃除や、ボディをきれいに磨き上げる時にも役立ちます。用途別で数枚を使い分けましょう。

また、弦の滑りを良くして寿命を長く持ちさせることにもつながる**潤滑油**も、ギターリストやベースリストには欠かせないアイテムです。スプレータイプのものもありますが、指板にも吹きかけてしまわないように、**弦に直接塗るタイプ**がお勧めです。



▲マイクロファイバー・クロス

▲弦に塗るタイプの潤滑油

ドラマー

ほとんどの場合、ドラム・セットは部の備品として学校に揃っていると思うので、ドラムを叩くための「スティック」だけ用意すれば演奏することができます。しかし、スティックが折れてしまったために常備しておきたい予備のスティックや、ドラムの様々な調整に使用するチューニング・キーなどを入れておくスティック・ケースも必要です。

スティック

ドラムの演奏に必要な「スティック」には、重さや長さ、太さ、材質、先端部分の形状などに様々な種類があります。好きなドラマーのシグネチャー・モデルから始めても構いませんが、先輩や部員同士で交換してみたり、いろいろと試してみても自分に合うものを見つけていくといいです。また、スティックは消耗品なので、演奏しているうちに削れていき、折れてしまうこともあります。「セット」ではなく、必ず予備のスティックを用意しておきましょう。



▲材質/ヒッコリー、グリップ径/14.5mm、長さ/406mm、チップ/ティアドロップ

のうちは避けた方が良いでしょう。

形状 スティックは、長さや太さ、グリップ部分やシールド部分の形状なども様々です。どれを選ぶかは好みでもありますが、標準とされているのは「5A」という型番です。メーカーによって微妙にサイズが違うので



ティアドロップ型(左)、オーバル型(右)

ですが、基準として捉えておくとうれいでしょう。

チップ スティックの先端部分「チップ」には、形や大きさにいろいろ違いがあり、中にはチップだけナイロン製のタイプなどもあります。チップは楽器に直接触れる部分なので、サウンドや叩き心地に大きく影響します。スティック選びの意外と大事なポイントです。一般的なのは、叩きムラが少なく広いジャンルに対応できるティアドロップ(涙)型やオーバル(卵)型です。はじめはこの2種類のどちらかを選んでおくことをお勧めします。

スティック・ケース

予備のスティックは、まとめてスティック・ケースに入れておきましょう。演奏する時はストラップでフロア・タムに取り付けておけば、すぐに取り出せます。また、スティック以外にも、必要になればマレットやブラシなどを一緒に収納しておくことができ、チューニング・キーや筆記用具などもポケットにし



▲スティック・ケースは必須

まっておけます。スティック・ケースがあれば、部活動の持ち物はこれだけで終わりです。

色やデザインも含め、スティック・ケース選びは好みですが、その素材もポイントです。ナイロンやキャンバス素材が一般的で、安価ながら耐久性もあり、軽量なのでお勧めです。他に考慮すべきところは、スティックの収納数(大きさ)、肩に掛けるストラップの有無、ポケットの多さなどが挙げられます。

チューニング・キー

チューニング・キーは、各ドラムのホルトを調節してチューニングをしたり、ペダルのピーターの取り付けから、場合によってはタム・ホルダーやスタンド類の調節など、ドラムのセッティングに欠かせないアイテムです。チューニングは経験と慣れが必要なので、すぐには難しいと思いますが、ドラムを叩く時にはすべてのホルトが緩んでいないかを確認して、もし緩んでいたら軽く締めしておくくらいから始めていきましょう。

基本的には市販されているどのタイプでも大丈夫ですが、一部のメーカーはホルトが独自の形状をしています。なるべく学校のドラムと同じメーカーのものを揃えましょう。



▲ドラマーの証。紛失しやすいので注意!

ドラム・ペダル

バス・ドラムは、ペダルを使用して足で演奏します。ペダルは、市販されている標準的なドラム・セットには付属しているため、部の備品として揃っていると思います。しかし、細かい設定ができるため、共用のペダルを使うよりも「マイ・ペダル」を持参した方が断然有効です。

個人練習やバンド練習など、どんな場所でもいつも同じ感覚でペダルを踏めるので、より早く思い通りのペダリングができるようになります。また、ライブ本番でストレスなく演奏できるのも大きなポイントです。入部した際の時期に慌てて購入する必要はありません。

せんが、余裕ができてきたらぜひ考えてください。

ペダルには様々な種類があり、価格も相応です。フット・ボードやペアリング部分を細かく調整できる機種もありますが、シンプルなものでも問題ありません。ただ、安定性のため、アンダープレート付きがお勧めです。

カム 「カム」は、足からの力をピーターに伝えるペダルの心臓部です。メーカーによって呼び名は違いますが、大きく「真円」「タイプ」と「楕円」タイプに分けられます。楕円タイプは慣れるまでは少し違和感があるかもしれませんが、はじめは、クセのない真円

タイプがお勧めです。

ストラップ フットボードからカムへ動力を伝える「ストラップ」は、大きく分けて「ナイロン・ベルト」タイプと「チーン・ベルト」タイプがあります。現在では、より正確で大きなパワーを伝えやすい2本のチーンでできている「ダブル・チーン」タイプが主流です。



▲ピーターは他のタイプを個別で購入できる



▲今やツイン・ペダルも一般的。シングルとしても使える

スネア・ドラム

スネア・ドラムは、ドラム・セットの中でもアンサンブルのトータル・サウンドに影響する中心的な楽器です。基本的には、販売されているドラム・セットの中に含まれているので、自分で用意する必要はありません。しかし、サウンドにこだわりが出てきたら「マイ・スネア」を持参しましょう。

ドラムの音色は、もともと持っている個別のキャラクターと、後から変化させていく部分があります。特にスネア・ドラムの音色は、ドラム・ヘッドの種類、チューニング、ミュート方法などによって大きく変わるので、選ぶ際にはもともとこの個性を主にチェック

しましょう。

シエルの素材 ドラムの胴体部分のことを「シエル」と言います。シエルは、木材を使った「ウッド・シエル」タイプと、金属で作られた「メタル・シエル」タイプに大きく分けられます。お勧め

は、比較的丈夫で個体差が少なく、手入れが楽なメタル・シエルです。様々な素材がある中でも、スティール製はクセが少なく、幅広いジャンルに対応できるので人気があります。

ちなみに、ウッド・シエルであれば、ナチュラルで明るいサウンドのメイプル材がメインで使われている機種が最もスタンダードです。

大きさ スネア・ドラムの大きさは、「口径」と「深さ」で考えます。好みにより異なりますが、標準的なサイズは、口径が14インチ、深さ(厚み)は5インチ、6.5インチが一般的です。

その他 他にチェックしておきたい部分は、例えば「テンション・ボルトの数」や「ラジの構造」「リムの材質」などが挙げられますが、特殊なタイプでなければさほど気にしなくても大丈夫です。また、スネア・ドラムは「スナッピー」という響き線が裏面に装着されているのですが、そのスナッピーを固定・調整する「ストレイナー」の構



▲スティール製、14インチ×5.5インチ

揃えておくべき必須アイテム

ドラム編

バンドをコントロールして、アンサンブルをまとめられるドラマーになるためには、自分が出すサウンドにも責任を持たなくてはなりません。徐々に持参する機材を増やしていきましょう。

キーボード・デイス

軽音楽部のキーボードデイスにとって、持参しなければいけないものはそれぞれの学校に揃っている備品によって変わってきます。しかし、近年では練習や音作りが自宅でもできるというメリットから、マイ・キーボードを購入して持参する人も増えています。中でも「ソフト・タッチ」のキーボードは、物理的にも軽く持ち運びやすくなっている

キーボード

キーボードは、学校の備品として部に用意されていることもあると思います。しかし、キーボードの台数が人数分あることは少ないと思うので、ギタリストやベーシストと同じように、自分でキーボードを用意する方向で考えていきましょう。

自宅にマイ・キーボードがあれば、個人練習がたくさんできるだけでなく、音色のカスタマイズやプログラミングも事前にできるので、バンド練習やライブのたびに音色を選ぶといった時間が短縮できます。

タッチ キーボードは、電氣的にピアノの音を再現する「エレクトリック・ピアノ」(以下、エレピ)と、「オルガン系」その他に大きく分かります。しかし、例えばエレピでもピアノ以外の音色を出すことができるため、現在では主にピアノとして演奏する、鍵盤のタッチが重いキーボードのことを「ハード・ピアノ



▲61 鍵盤のシンセサイザー キーボードは年々どんどん進化を続けている

ノやオルガンの音色も含め様々な音色を出すことができる、鍵盤のタッチが軽いキーボードのことを「シンセサイザー」と呼ぶことが一般的です。

エレピは、音色も弾き心地も生ピアノと変わらない感覚で演奏することができますが、楽器自体の重量がとて重く、毎日学校に持参することは難しいと思います。個人で購入するのであれば、**シンセサイザー**の方がお勧めです。厳密に言うと、メーカーやシリーズ、年代によって音色の違いがありますが、色や形で選んだり、好きなアーティストが使用しているから、といった理由で選んでも大丈夫です。

鍵盤数 鍵盤の数は、キーボードの種類によって違いがあります。主に88鍵盤、73鍵盤、61鍵盤が一般的ですが、シンセサイザーなら61鍵盤あればある程度のピアノ・ブレイにも対応でき、2つの音色を鍵盤に振り分ける「スプリット機能」を使う場合でも、鍵盤数を気にせずに設定することができます。他にも、様々な鍵盤数の機種があります。ちなみに、グランド・ピアノは88鍵盤です。

機能 現在では、あまり低価格すぎなければほとんどの機種が同じような仕様になっていますが、背面の入出力端子は気にしておきましょう。特に確認しておきたいのが**USB端子**です。カスタマイズした音色をUSBメモリに保存したり、パソコンとつないでDTM(デスクトップ・ミュージック)を行うことができます。その場合、オーディオ・インターフェイス機能や音声録音したりオーディオ・ファイルをインポート/再生できる機能があると便利です。

キャリング・ケース

キーボードを持ち運ぶためには、専用のケースが必要です。購入時に付属してくる場合もあると思いますが、あまり丈夫ではない可能性があります。登下校など移動のことを考えて、丈夫なケースの購入をお勧めです。

選ぶ基準は色やデザインでも構いませんが、最も大事なのは鍵盤数による大きさです。自分の楽器の鍵盤数を把握しておきましょう。その他には、衝撃吸収材の有無や収納ポケットの容量もポイントですが、なるべく軽くて丈夫なタイプを選びましょう。

最近では、背負える**リュック・タイプ**やキャスター付きの転がせるタイプが人気です。



▲キャスター・タイプ



▲ストラップ付きのリュック・タイプ

揃えておくべき必須アイテム

キーボード編

キーボード本体が学校の備品としてあれば、キーボード・スタンドやアンプをはじめとした付属の機材も揃っていると思います。しかし、自分で用意した方が使いやすく、また安心なものもあります。

シールド・ケーブル

キーボードの中には、スピーカーが内蔵されている機種もありますが、バンド練習やライブ時には、シールド・ケーブルをアンプやミキサーにつないで音を出すことが基本です。マイ・キーボードを持参しない場合でも、シールド・ケーブルは自分のものを使いましょう。

シールド・ケーブルは、様々なメーカーから発売されていますが、特に高価なものを用意する必要はありません。しかし、あまり廉価なもの

控えた方が良いでしょう。色やデザインは好みですが、注意して欲しい点は長さです。普段の練習場の環境にもよりますが、最低でも**フォーマット**以上のものを用意しておくこと安心です。出力の仕方によっては2本以上必要になる場合もありますが、突然断線してしまっても大丈夫なように、**3本〜4本**は常備しておきたいところです。

挿す側のジャックは、L字形になっているタイプの方が邪魔にならないのでお勧めです。



▲ジャックがL字になっているタイプ

▲共用のものではなく、自分のものを使おう

各種ペダル

キーボードを演奏するには「サステイン・ペダル」が必要になる場合もあります。アコースティック・ピアノを弾き慣れている人にとっては欠かせないアイテムだと思えますが、簡単に言えば、鍵盤から手を離してもペダルを踏んでいけば音を伸ばしておくことができます。「ダンパー・ペダル」と呼ばれることもあります。これからキーボードを始めるという人も、ポピュラー・ミュージックではピアノ演奏をすることもあると思うので、購入を視野に入れておく

極性が合わずに使えないことかあります。**本体と同じメーカー**のものを購入するようにしましょう。ただ、シリーズによって不具合が出る場合もあるので、仕様をよく読んで購入しましょう。

他にも、音量をコントロールする「ボリューム・ペダル」や、音色の切り替えやサステイン・ペダルとしても使える「フット・スイッチ」も便利です。足に負担がかかっている演奏しづらくなるのではないかと、思う人もいるかもしれませんが、慣れれば逆に、手で行わなければならない動作や作業を足ですることができるので、演奏が楽になります。使用するには本体内での設定が必要な場合がありますが、ポ



▲フット・スイッチ。設定すれば様々なスイッチとして使用できる

▲フット・スイッチ。設定すれば様々なスイッチとして使用できる

USBメモリー、SDカード

機種にもよりますが、最近のキーボードには好みの音色や設定をUSBメモリーやSDカードに保存できる機能がついています。共用のキーボードを使う場合は特に、自分が使う時にいつでも同じ設定で使うことができるようになります。しかし、校外で演奏することになった時に、使用するキーボードと必ず互換性があるとは限りません。その場合、保存してある設定を読み込めない可能性があります。

USBメモリーやSDカードはバック・アップ用と考えると、ゆくゆくはマイ・キーボードの購入を視野に入れておきましょう。



▲一般的な市販されているもので大丈夫



SHOWA
ACADEMIA
MUSICAE

Pop & Rock Music, Jazz

昭和音楽大学 | 昭和音楽大学短期大学部
ポップ&ロックミュージックコース / ジャズコース

アンサンブルセミナー

本学教員がアドバイス!!
ジャムセッションを楽しもう。

【個人またはバンド
単位で参加可能】
5/2 Sat 6/21 Sun 他

オープンキャンパス

昭和音大を
体感してみよう!

5/17 Sun 6/21 Sun 7/12 Sun 他
●コース説明 ●模擬授業 ●キャンパス見学 他

受験講習会

個人レッスンでプロの技を身につけよう!

5/2 Sat 5/31 Sun 6/21 Sun 他
●実技個人レッスン ●ポピュラー音楽理論 他

夏期講習会

受験生受講率No.1!! 夏休みにレベルアップ

8/1 Sat ~ 4 Tue
●実技個人レッスン ●ポピュラー音楽理論 ●DTM講座 他

受験対策スクール "パスウェイズ" Pathways

無料体験レッスン受付中!
音大受験生に対し、
本学の講師陣が継続的に
レッスンをを行います。
オンラインも可能です。
【対象：高校生(既卒者含む)、中学生】

CREATOR SCHOOL

小中高生のための
音楽クリエイター育成スクール
4月開校!

▶日程や内容は変更となる場合がありますので、詳細や最新情報はウェブサイトをご覧ください。◀



お申込・
詳細は
ウェブで!

お問い合わせ / 入試広報室

0120-86-6606

nyushi@tosei-showa-music.ac.jp
〒215-8558 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-1

オンライン個別相談、実施中! 平日11:00~18:00

本学教員・進学アドバイザーが質問にお答えします。(1回30分程度)
◎希望日の3日前までに申し込んでください。

★タイガー大越客員教授は年に数回、特別レッスンを行う予定です。

教員紹介

(2026年2月現在)



コレも揃えておこう!

その他の便利アイテム

絶対に揃えておこう! というワケじゃないけれど、持っていた方が便利なアイテムもあります。その一部を紹介しますが、パートによってまだまだ他にもいくつかあるかもしれません。先輩によく話を聞いておきましょう。

ピアノ・アプリ

ボーカリストには特に持っていて欲しいのが、ピアノ・アプリです。楽器がそばになくても音程の確認がすぐできます。もちろん、コード(和音)やスケール(音階)の勉強などにも使えます。ピアノリストのように実際に演奏することが目的ではないので、定まった音程が出るものであればどのアプリでも大丈夫です。強いて言えば、スマートフォンであれば、鍵盤が1段で表示されるタイプの方が使いやすいかもしれません。いろいろ試してみてください。



▲好きなアプリをダウンロードしよう



▶音楽用のレコーダーは音質も良いので、細かい部分まで録音することができる

歌ったり楽器を演奏しながら、自分やバンドの演奏を確認することは難しいものです。第三者の立場でチェックすることによって、良いところ悪いところが浮き彫りになります。個人練習、バンドでの練習、ライブ本番など、音を出す時は必ず録音して後で確認しましょう。最近では、様々なハンディーレコーダーが発売されています。マイク性能が高く、低ノイズで多重録音可能なもの、DAWソフトが付属して簡単にパソコン編集も行える機種がお勧めです。スマートフォンのボイスメモや無料アプリでも録音できますが、データとしてメンバーと共有できなかったり、音質があまり良くなかったりするので注意してください。

メトロノーム

音楽をする人全員に必要なアイテムがメトロノームです。個人練習、バンド練習などに使っていくことで正確なテンポ感が養われます。今では電子式が当たり前になり、スマートフォンの無料アプリもありません。アプリは、楽曲ごとにテンポやクリック音の出し方をメモリーできたり、数曲分のセット・リストが自由に組めたりするのでお勧めです。



▲全員に必須のアイテム

お手入れ&調整グッズ

とっさのトラブルに対応したり、いつでもベストな状態で演奏できるように、まとめて持っている便利なグッズもあります。楽器ケースなどに忍ばせておきましょう。



▲爪切り



▲精密ドライバー



▲六角レンチ



▲レモンオイル。ギター、ベースの指板に潤いを与える

カポタスト

カポタストは、通称「カポ」と呼ばれる、開放弦を有効に使うためのアイテムです。押さえるコードの形はそのまま、調を変えることができます。セーハ・コードではなく、オープンな響きで演奏できるため、アコギ、エレキ問わずに使用することができます。カポは、ネックに挟んで使います。その方法は「パネ式」「ねじ式」「レバー式」「コム式」など様々です。演奏中の付け外しを重視するか、チューニングの安定性を重視するにもよりますが、なるべく簡単に脱着が可能で安定性の良いものを選びましょう。

